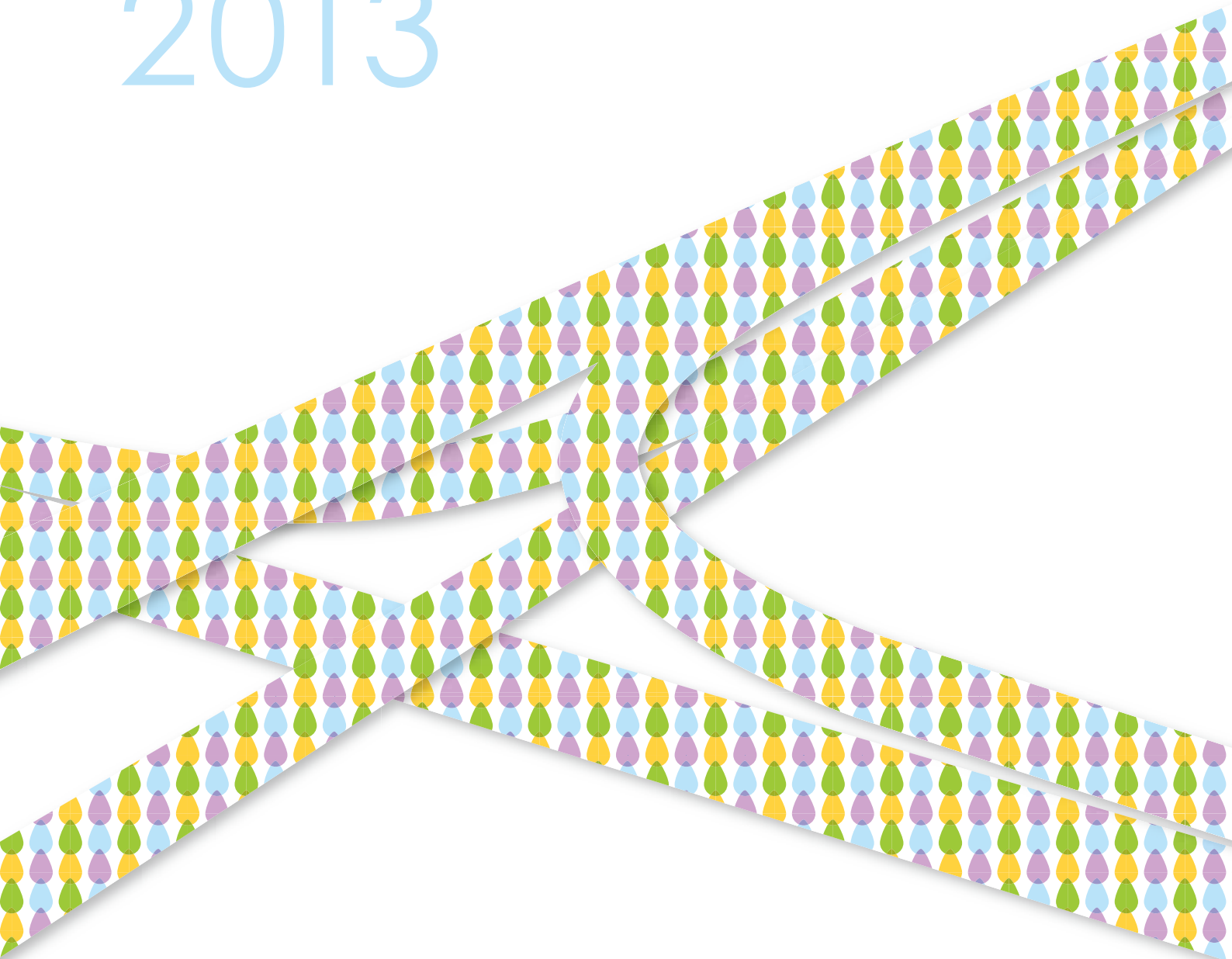


阪神高速の環境への取り組み

環境レポート 2013



阪神高速



会社概要

社名 阪神高速道路株式会社
 設立 2005年10月1日
 社員数 約700名
 資本金 100億円(+資本準備金 100億円)
 事業内容 ●高速道路の新設・改築
 ●高速道路の維持・修繕・その他の管理
 ●高速道路の休憩所等の運営
 ●国・地方公共団体等からの委託による道路の建設・管理・調査等
 ●その他の事業

営業中路線 259.1km
 建設中路線 13.9km(合併施行区間を含む)

企業理念

「先進の道路サービスへ」
 阪神高速は、安全・安心・快適なネットワークを通じてお客さまの満足を実現し、関西のくらしや経済の発展に貢献します。

経営方針

- 阪神高速は、お客さまや地域とのコミュニケーションを大切にします。
- 阪神高速は、公正で透明な経営を維持し、健全な発展を目指します。
- 阪神高速は、社会の期待に応えるため、迅速・的確・積極的に行動します。

『環境レポート2013』の発行にあたって

阪神高速は、「先進の道路サービスへ」を企業理念として、安全・安心・快適なネットワークを通じてお客さまの満足を実現し、関西の暮らしや経済の発展に貢献することを社是としています。今年度においては、昨年笹子トンネルで発生した事故を踏まえ、「視点を新たに「安全・安心！」を当社グループのスローガンとして、さらにお客さまに信頼される阪神高速を目指すことといたしました。

さて、当社グループでは、企業活動に伴う環境負荷の軽減や都市環境との調和を図るため、昨年5月に環境に関する基本理念などをとりまとめた「環境ポリシー」を制定し、環境マネジメントを経営の1つの柱として位置づけたところです。

当社の事業活動のうち道路ネットワーク整備の分野では、昨年10月に32号新神戸トンネルを当社のネットワークに組み入れ、本年3月に6号大和川線の一部(三宅西～三宅中JCT)を供用したのに引き続き、5月には2号淀川左岸線(島屋～海老江JCT)を供用し、259.1kmのネットワークを形成するに至りました。渋滞の少ない高速道路を提供することにより、排ガスの低減や燃料の節約が図られます。また、道路の維持管理の分野では、昨年5～6月に3号神戸線で、11～12月に13号東大阪線で大規模保守工事を行うなど、効率的な補修に努めました。距離料金への移行に当たって5号湾岸線への乗り換えを促進する環境ロードプライシングを継続実施するとともに、7号北神戸線長坂山トンネル照明のLED化、すべての有人PAへのEV用急速充電器の配備完了などの施策も推進しました。

今後、持続可能な社会の形成を目指していくためには、より一層の省資源・省エネルギーやCO₂の排出抑制が求められています。阪神高速が関西都市圏の交通の大動脈という大きな役割を果たしていることを自覚し、環境負荷の低減や環境改善に寄与するサービスの追求に、グループを挙げて取り組んで参りたいと考えます。そして、これらの取り組みに継続的な改善を加えることで環境マネジメントを推進し、地域の期待に充分に応えられる企業グループであり続けたいと願っています。

2013年6月



代表取締役社長
山澤 倶和

CONTENTS

会社概要	01
『環境レポート2013』の発行にあたって	02
2012 TOPICS	03
管理 における取り組み	
沿道環境対策 I	11
沿道環境対策 II	13
CO ₂ 削減対策	15
省エネルギー対策	20
事業活動に伴うエネルギー消費	21
オフィス における取り組み	
オフィスにおける省資源・省エネ活動	22
工事 における取り組み	
道路工事での3R	23
地域 における取り組み	
環境・景観にかかわる社会貢献	25
海外 での取り組み	
阪神高速道路のノウハウを世界に発信	27
環境ポリシー	28

対象組織

阪神高速道路株式会社
 *一部グループ会社の事例も掲載しています。

対象期間

2012年度
 (2012年4月1日から2013年3月31日まで)
 *過年度参考データとして、一部阪神高速道路公団時代の情報が含まれます。
 *一部は2013年4月以降の事例も掲載しています。
 *過去の一部データに誤りがありましたので修正しています。

拡がるネットワーク

topics 1

大阪都市再生環状道路の一部開通によるネットワーク整備

阪神高速では、これまでに京阪神都市圏の都市高速道路ネットワークを整備しており、さらに大阪都市再生環状道路に位置づけられた、淀川左岸線、大和川線、松原JCTの整備を進めています。他にも、神戸・湾岸方面から大阪市内経由で池田・守口方面へのアクセスを向上させる西船場JCT(信濃橋渡り線(仮称))や、守口線と近畿自動車道をつなぐ守口JCT(仮称)の整備も進めています。

2号淀川左岸線(島屋～海老江JCT)の開通

「淀川左岸線」は、5号湾岸線(北港JCT)と新御堂筋(大阪市北区豊崎)を結ぶ延長10.0kmの路線で、島屋～海老江JCTまでの4.3kmが2013年5月に開通しました。

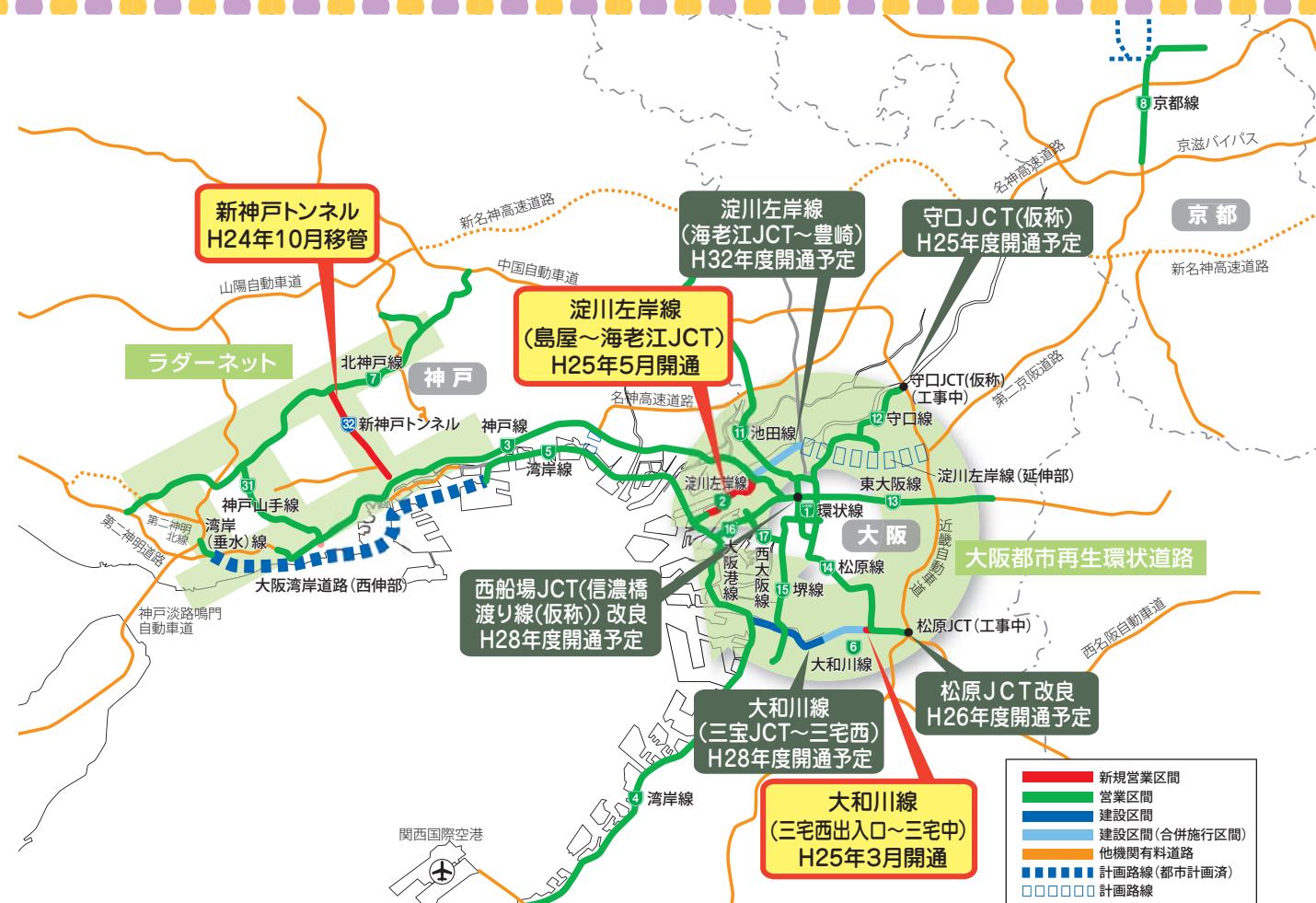
3号神戸線と5号湾岸線を直結するルートが形成されることにより、大阪都心北部からの通過交通が分散され、都心部の慢性的な交通混雑が緩和されます。また、大阪ベイエリアと都心部を結ぶ東西の交通軸が強化され、物流の効率化が図られます。

残る海老江JCT～新御堂筋までの4.4km(大阪市との合併施行区間を含む)が整備されることにより、物流の効率化に一層の効果が期待されます。



6号大和川線(三宅西出入口～三宅中)の開通

「大和川線」は、4号湾岸線(三宝JCT(仮称))と14号松原線(松原市三宅中)を結ぶ延長約9.7kmの路線で、大阪南部地域における臨海部と内陸部が高速道路で直結されることになり、東西方向の交通混雑が大幅に減少し、同地域の社会経済活動の活性化に大きく寄与することが期待されています。堺市北区常盤町～松原市三宅中までの4.3kmの区間において、街路事業との合併施行を導入しています。このうち、松原市三宅西から三宅中までの0.6kmが2013年3月に開通しました。今回の開通により、松原JCT経由での西名阪自動車道・阪和自動車道の利用が便利になり、松原市西部と奈良・和歌山方面のアクセス性が向上します。残る区間についても、早期完成を目指して鋭意工事を進めているところです。



topics 2

ラダーネットワークの整備

兵庫地区では、東西に走る7号北神戸線、3号神戸線、5号湾岸線、さらには現在計画されている大阪湾岸道路西伸部と、それらをつなぐ31号神戸山手線などの南北方向の路線を梯子状に組み合わせるラダーネットワーク構想が策定されています。

32号新神戸トンネルの移管

神戸都心と7号北神戸線を結ぶ延長8.5kmの「新神戸トンネル」が、2012年10月に神戸市道路公社から阪神高速道路(株)に移管されました。新神戸トンネルが、阪神高速道路ネットワークに組み入れられたことにより、より利用しやすい料金体系となり、利便性が向上し、神戸地区の交通の分散化、円滑化が図られるようになりました。



LED

topics 3

トンネル照明をLED灯へ

トンネル照明については照明器具の台数も多く、24時間連続して点灯しているため、その省エネルギー化、長寿命化、低コスト化が課題となっていました。昨今のLED技術の進歩と低コスト化を背景に各種照明計算やシミュレーションを重ねた結果、新しく供用した2号淀川左岸線正蓮寺川トンネル及び供用中路線である7号北神戸線長坂山トンネルの基本照明にLED灯具を採用しました。

今後も、建設中の路線におけるトンネルや、今後実施される供用中トンネルにおける設備更新時には、LED灯の採用を進めていきます。

2号淀川左岸線のトンネル照明



2013年5月に開通した2号淀川左岸線では、トンネル区間全長にわたって道路基本照明にLEDを採用しました。(ただし、坑口部には照度確保のため、通常照明を一部使用しています。)

7号北神戸線 長坂山トンネル照明

2012年度は7号北神戸線 長坂山トンネルにて、供用中トンネルの照明に初めてLEDを採用しました。今回の整備効果として、

①使用電力量(CO₂)排出量削減

複数の小さな発光体で構成されるLEDは、従来のトンネル照明器具と比べて高効率で自由な配光が得られるため、より少ない電力で所定の明るさを確保することが可能となり、使用電力(CO₂)を削減できます。

②交通規制を伴う保守作業の縮減

LEDは長寿命で寿命末期でも球切れしないため、ランプ交換など交通規制を伴う保守作業の回数を減らすことができます。

整備区間(西行715m・東行745m)における効果

	取替前のトンネル照明 (低圧ナトリウム灯)	取替後のトンネル照明 (LED灯)	導入効果
消費電力量	約130,000kWh/年	約46,000kWh/年	約65%削減
CO ₂ 換算排出量	約37t/年	約13t/年	
定格寿命	9,000時間	90,000時間	10倍

※数値は、西行、東行合計値



新型LED灯具



取替前
(低圧ナトリウム灯)



取替後
(LED灯)

EV急速充電器

topics 4

全有人PAにEV用急速充電器を設置

EV(電気自動車)は、走行時に温室効果ガス(CO₂)を排出しないうえ、走行時の音もとても静かで環境に優しい乗り物です。

EVでのロングドライブの不安を解消し、安心して快適に阪神高速道路をご利用いただけるよう、これまでに4号湾岸線泉大津PA(海側)及び5号湾岸線中島PAに、EV用急速充電器を設置してきました。

今回、新たに3号神戸線京橋PA(西行・東行)・4号湾岸線泉大津PA(陸側)・16号大阪港線朝潮橋PAにおいて、急速充電器を設置したことにより、全有人PAで電気自動車への充電が可能となりました。



充電ポイントマークが急速充電器設置場所の目印です。

※普通充電には対応していませんので、ご注意ください。
 ※ご利用には、「チャデモチャージカード」が必要となります。
 (会員登録していない方には、当面、PAコンシェルジュにて無料でご利用頂けるよう対応しています。)



「チャデモチャージ」とは、合同会社 電網整備推進機構が運営する会員制の充電ネットワークサービスです。

節電

topics 5 節電の取り組み

2011年の東日本大震災の影響による電力不足を受け、関西電力管内では、2012年度も夏及び冬に節電への取り組みを行いました。*

特に夏は、大幅な電力不足が予想され、万が一に備えて計画停電の準備も行われたため、社長を本部長とする節電対策本部を立ち上げるとともに、一部の非常用発電装置について、電力需給ひっ迫時に関西電力㈱から運転依頼があった場合には運転できる体制も整えました。

節電の取り組みとしては、安全・安心な道路サービス提供の確保を大前提に、2011年度から実施している道路照明の減灯（輝度50%低減）、一部トンネル照明の減灯（輝度50%低減）を継続するほか、通信塔・基地への熱交換塗装等を実施しました。また、オフィスにおいてはこまめな消灯や照明の間引き、適正な室温設定等の対策、夏期における一部事務所で緑のカーテン設置や昼の休憩時間を電力使用のピーク時間に合わせるピークシフト対策等を実施しました。

この結果、夏（7月～9月）のピーク電力（ピーク電力の把握が困難な賃借事務所等を除く）は△10%、総電力で△7%の削減を達成しました。なお、2010年12月に神戸山手線（神戸長田～湊川JCT）を新規供用しているため、この影響を除いた場合、ピーク電力で△16%、総電力△11%の削減となります。冬（12月～3月）は、ピーク電力で8%、総電力で7%の削減となりました。

*節電要請の内容は以下の通り。

夏は、7月2日～9月7日の平日（8月13日～15日を除く）9:00～20:00の間、2010年比15%（大飯原子力発電所再稼働後の7月10日以降は10%）以上の節電に関する協力要請。ただし、9月28日までは数値目標を伴わない節電の要請がありました。また、冬については12月3日～3月29日の平日（12月31日及び1月2日～4日を除く）9:00～21:00の間、節電に関する協力の要請がありました。



基地屋根への熱交換塗装

安全対策

topics 6 真夏の高速道路で冷水のサービス



阪神高速パトロール㈱では、真夏の阪神高速道路において、事故、故障等で待避しなければならないお客さまに対して、冷水を提供するサービスを実施しています。このサービスは熱中症対策ともなり、お客さまに非常に好評です。また、2012年度からは、「安全運転の啓発」として、オリジナルラベルをペットボトルに貼るなど、交通安全対策にも取り組んでいます。交通事故や故障による渋滞が減ることで、CO₂排出量の削減に寄与します。

3Rの推進

topics 7 横断幕の再生事業



阪神高速道路をご利用されるお客さまに、補修工事の案内等さまざまな情報をお知らせしてきた横断幕は、はっ水性に優れた丈夫な生地を使っています。使用後は産業廃棄物として捨てられていましたが、比較的掲示期間が短く、汚れの少ないものもあるため、バッグに再生して販売する事業を開始しました。

ドライバーから見えやすいカラフルな色使いであることから、交通安全にも貢献できるのではないかと考え、第一弾として、かわいい動物のイラストをプリントした子供向けバッグを商品化し販売しています。今後もさまざまな商品を増やし、廃棄物を削減していきたいと考えています。（販売サイトは、<http://reloop.jp/>）

topics 8 発生土再生活用事業の進行状況

堺市・松原市を東西に結ぶ大和川線。全長9.7kmのうち3.9kmがシールドトンネルです。シールドマシン掘削により発生した土は、廃棄物処理法上「建設汚泥」に該当し、産業廃棄物扱いとなります。これらを最終処分場に運搬処分するのではなく、建設汚泥の排出口（シールド立坑）に近い大阪市第6貯木場の横に建設した発生土再生作業所に運搬し、そこで改質処理（再生）して、同貯木場埋立事業の埋立柱材への活用を行っています。

異なる事業が連携した資源循環型共同プロジェクトにより、資源の有効利用、シールド発生土の適正処理、最終処分場の延命化およびCO₂削減に寄与するとともに、各事業のコスト縮減が図られています。



2012年7月現在



2013年5月現在

topics 9 遮音壁の再利用



6号大和川線のトンネル工事現場では、工事のために撤去した4号湾岸線三寶ランプの遮音壁を、移動式防音パネル等に再利用しています。産業廃棄物として処分される予定の遮音壁が、工事現場に隣接する住宅地の環境保全に役立っています。

都市景観

阪神高速では、道路の建設、管理等にあたっては都市景観に配慮したものとなるように努めており、社内に景観委員会を設置して道路の色彩や修景等について審議を行いながら景観対策を実施しています。2011年度には構造物への修景等の要望があった場合の取扱い方針を新たに定めるなど、よりよい都市環境の創造と共生に向けた努力を行っているところです。また、近年は世界の主要都市がライトアップによる魅力の発信やにぎわい創出を進めている中、大阪府・市では水都大阪の再生に向けた光のまちづくりを、神戸市では夜間景観形成への取り組みを進めており、阪神高速もこれに協力しています。

topics10

堂島川の橋脚ライトアップ延伸



鉾流橋からの眺め

2008年から堂島川や東横堀川に建つ1号環状線の橋脚をLED照明によりライトアップする事業を東横堀川・堂島川ライティング実行委員会と協力して実施してきました。2012年度は、新たに鉾流橋(大阪市中央公会堂北側付近)から東側の橋脚12基にも同様のライトアップを開始し、これにより、「水都大阪フェス」や「OSAKA光のルネサンス」等のメイン会場となる中之島公園と堂島川が光の演出で一体的につながることとなりました。

なお、堂島川でライトアップしている橋脚は、2012年度末現在において全32基、延長で1.25kmになります。



topics11

東横堀川クルーズ実験

東横堀川は、もともとは大阪城築城の際に堀として開削されたもので、城下町として繁栄した大阪の町の歴史とともに地元で愛され、親しまれてきました。水都大阪では、大阪の中心部を流れる川を光の回廊としてライトアップする試みが行われていますが、現在の東横堀川は、高速道路の高架と垂直に切り立った護岸とに囲われ、日中でも暗い印象があります。このため、東横堀川・堂島川ライティング実行委員会ではこのような立地条件を逆に生かし、東横堀川を航行している観光クルーズ船に映像・レーザー機器を載せ、桁裏などに投影する社会実験を10月18、19日に実施しました。その結果、動きと意外性のあるライトアップを行うことができました。



topics12

北新地ガーデンブリッジカフェ実験

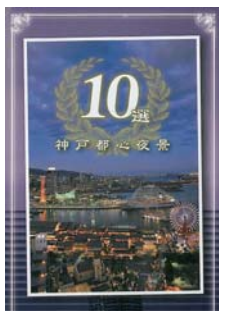


堂島川の大江橋(御堂筋)と渡辺橋(四ツ橋筋)の間に中之島ガーデンブリッジという美しい人道橋が架かっています。この橋は、中之島の中心部に位置し、幅員も広く、大阪を代表する繁華街である北新地への入口部分にあたる橋でもあることから、10月13日~21日の7日間、橋の上でオープンカフェ「北新地ガーデンブリッジカフェ」を行う社会実験が行われました。阪神高速も、橋脚ライトアップを華やかな演出に変更したり、イベントの企画や花植え活動等の協力を行っています。

topics13

神戸市夜間景観

神戸のまちの灯りは日本三大夜景の一つとされ、一千万ドルの夜景として親しまれてきました。神戸市では、この神戸らしい夜間景観にみがきをかけ、デザイン都市・神戸の都市ブランド力を高めるため、「神戸市夜間景観形成実施計画」(2012年3月)を策定し、地元、事業者、専門家等が連携して具体的な取り組みを進めており、阪神高速もこれに協力しています。2012年度は、新たな夜景観賞スポットを広く募集し、「神戸都心夜景10選」としてまち歩きに使えるマップが作成されました。



まち歩きマップ「神戸都心夜景10選」(神戸市)

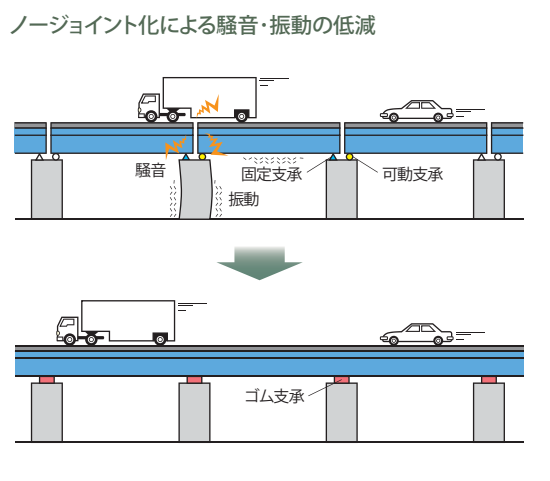
沿道環境対策 I

ノージョイント化工事の実施、高機能舗装の敷設等により、沿道の騒音・振動の低減に努めています。

ノージョイント化工事の実施

舗装の凹凸や橋桁のジョイント(路面の継ぎ目)の段差は、騒音や振動の発生要因となります。施工可能な区間においては、ジョイントをなくしてしまうノージョイント化工事を実施したり、ジョイント数の少ない連続桁の採用などを行っています。

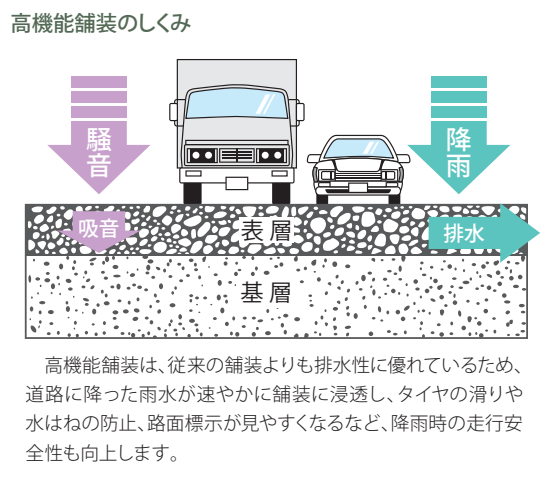
阪神高速では、2012年度に48レーンにおいてこのようなノージョイント化工事を行いました。



高機能舗装の敷設

道路交通騒音の要因の一つに、タイヤの溝と舗装との間で圧縮された空気が解放された時に発生する騒音があります。高機能舗装は、従来の舗装よりも多くの空隙(すきま)を有するもので、この空隙の中へ圧縮された空気が逃げていくことにより騒音が低減されます。また、高機能舗装は、車体そのものから発生する騒音についても吸音効果を発揮します。

2012年度には約21.5km(車線延長)にわたり、このような高機能舗装を施工しました。



車両制限令違反の取締り



阪神高速では交通安全への配慮や構造物の保全に加えて、騒音や振動の軽減など環境保全の面からも、専従班を設けて車両制限令違反車両の取締りを行っています。

料金所及び入路付近の平面街路において随時取締りを実施し、違反車両に対して措置命令を手交し最寄り出口からの退去を命じたり、指導警告により是正を促すなどの措置を講じています。随時取締りには阪神高速が単独で行うものと、警察と合同で行うものがあります。併せて、積載不適当車両の取締りもを行っています。これらの取締りについては、年間を通じて延べ2,800回程度実施しています。

なお、料金所や入路に設置した軸重計測装置等により、通過車両を24時間体制で計測し、違反車両に対し警告表示板の点灯や指導警告書の交付を行っているほか、軸重計カメラによる写真撮影を行い、悪質累犯車両の所有者または使用者に対し警告書を送付しています。

また、ETC普及に伴う料金所での非停止車両に対応するため、軸重計測装置の高速化対応を2007年度から実施しています。

車両制限令違反防止講習会

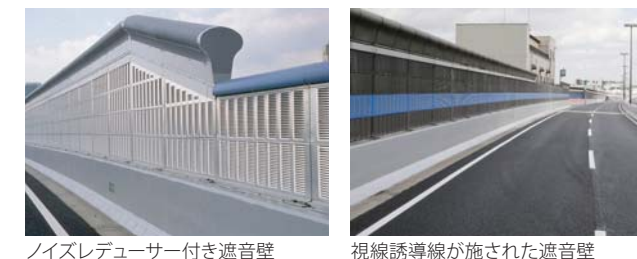
阪神高速道路では、違反車両の通行が道路構造物に甚大な損傷を与えるばかりでなく、沿道環境に悪影響を及ぼし、重大な事故の誘発原因となることから、車両制限令違反(軸重超過)の再発防止の一環として、車両制限令違反防止講習会を開催しています。

2012年度は、違反車両の所属会社を対象に、警察等関係機関の協力を得て、高速道路での事故状況、軸重違反の危険性、運送事業者への監査(行政による)概要などの講義を行いました。



遮音壁の設置

阪神高速道路を走行する自動車に起因する騒音を軽減するため、遮音壁を多くの箇所に設置しています。設置延長は約390km(片側)であり、このうち遮音壁の実際の高さ以上に吸音効果が高いノイズレデューサー付き遮音壁を約140kmに渡って設置しています。



沿道環境対策 II

環境ロードプライシングの実施、トンネル区間の排気処理、緩衝緑地の設置等を通じて、大気質の改善に取り組んでいます。

環境ロードプライシングの実施

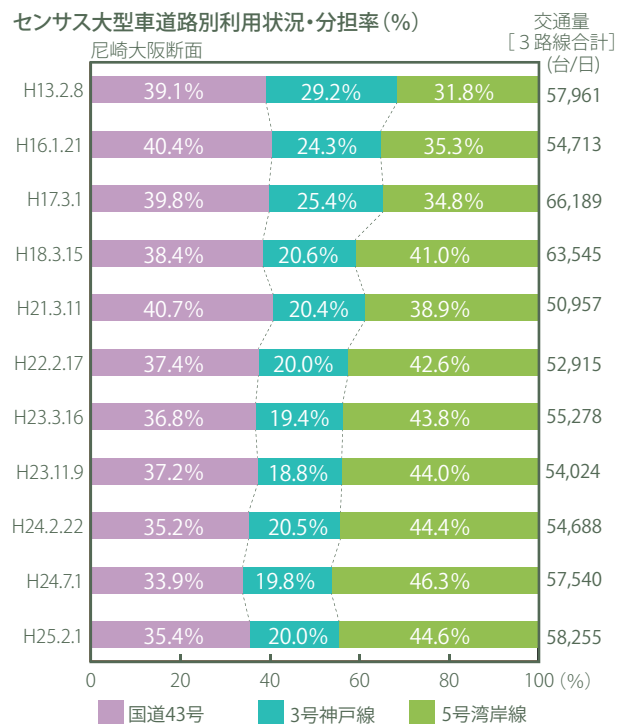
阪神高速では、国道43号・阪神高速3号神戸線沿道の 대기環境改善のため、2001年11月から5号湾岸線の貨物車など大型車の料金を割引いて5号湾岸線に誘導する「環境ロードプライシング」を実施しています。

2009年4月には割引率を当初の20%から30%に引き上げるとともに、対象区間を六甲アイランド北～甲子園浜から六甲アイランド北～天保山に拡大しました。

2010年3月には対象車種を料金大型車から、最大積載重量8t未満・車両重量5t未満などの料金普通車の一部（コーポレートカード利用の事前登録車）に拡大しています。

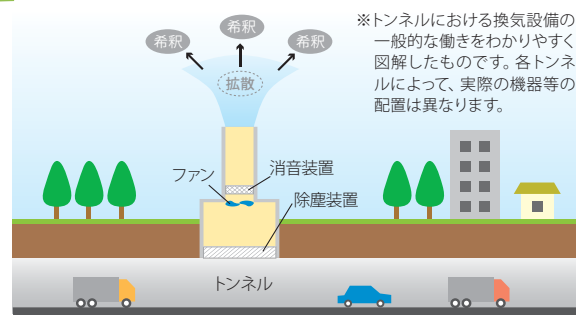
2012年1月の距離料金移行後の環境ロードプライシングでは、割引率や対象車種は従前の制度を維持しつつ、神戸～大阪間のご利用などでは料金圏撤廃の効果と相まって全体として従前より割安な利用料金となっています。

この環境ロードプライシングにより、国道43号の大型車分担率が下がり、5号湾岸線の大型車分担率が上昇しています。



トンネル区間の排気処理

近年建設された2号淀川左岸線・31号神戸山手線・8号京都線、また現在建設中の6号大和川線は、トンネル区間が多い路線となっています。トンネル内の排気ガスを含んだ空気が坑口から漏れ出すことを抑えるとともに、適切に空高く排気するために換気所を設置または設置を予定しています。また、この換気所には排気ガスに含まれる浮遊粒子状物質 (SPM) を除去する除塵装置も設置しています。



環境施設帯の設置

環境施設帯とは、阪神高速道路沿道の一定にまとまった範囲を緑地として整備するもので、都市計画決定を経て、用地取得後整備し、道路区域に編入します。

騒音・振動の低減効果とあわせて、大気質の改善、緑によるうおい創出などの効果があります。

2012年度末現在では約7.6kmを整備しています。



15号堺線沿道の環境施設帯



14号松原線沿道の環境施設帯

広域防災帯事業への参加・協力



国道43号沿道の環境防災緑地 (基本型)



国道43号沿道の環境防災緑地 (利用型)

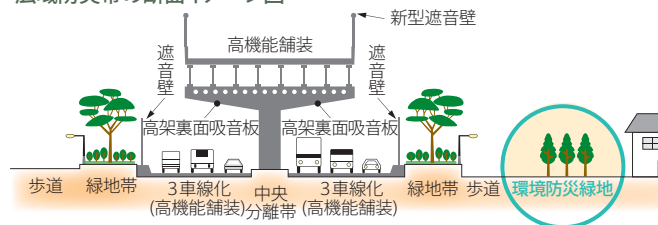
広域防災帯事業とは、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、国・県・関係市との連携により、3号神戸線・国道43号沿道地域において、災害時の延焼防止・避難路の確保など防災機能の向上とよりよい沿道環境の形成に取り組んでいるものです。

植栽を施した環境防災緑地 (基本型) は、緑の空間として沿道環境にうるおいをもたらすだけでなく、災害時には避難場所としての役割も果たします。また、近隣にお住まいの皆さまの要望により利用型として公園などに整備を行い、地域の皆さまの交流スペースとしても役立っています。

2012年度末現在で、約75,000㎡*の環境防災緑地を整備しています。

*土壌脱硝施設、特殊車両取締基地、大気常時観測局等含む。

広域防災帯の断面イメージ図



CO2 削減対策

各種交通安全対策や渋滞対策により、スムーズな交通の流れを確保し、CO2排出量の削減を図ります。

第二次交通安全対策アクションプログラムの実施

高速道路上で事故が発生すれば、渋滞が発生し、多くのお客さまにご迷惑をおかけするとともに、速度の低下により通常よりも多くのCO2が発生することになります。

阪神高速では、2007年に交通事故削減を目的として「阪神高速道路の交通安全対策アクションプログラム」を策定し、施設対策を中心とした様々な対策を3年間実施してきました。その結果、2009年度には対2005年度比で1,221件の事故を削減することができました。そして、2010年に「阪神高速道路の第二次交通安全対策アクションプログラム」を策定し、更なる事故件数削減に取り組んでいます。

ドライバーへ働きかける対策

ドライバーに伝える対策 (安全運転への誘導)

ドライバー自ら安全な運転を実行して頂けるようドライバーへ働きかける施策を展開します(「阪高SAFETYナビ」等)。



伝える
注意すべきポイントや安全運転のコツなどをドライバーに直接伝える

見える
ドライバーにとって分かりやすい道路案内を充実させる

先の状況が見える対策 (分かりやすい道路案内)

ライトユーザーや高齢者ドライバーにとっても分かりやすい道路案内を充実させ、危ない運転を抑制します。



より「安全」「安心」「快適」な阪神高速道路へ

安心できる
ドライバーが安心して走行できる環境を整備する

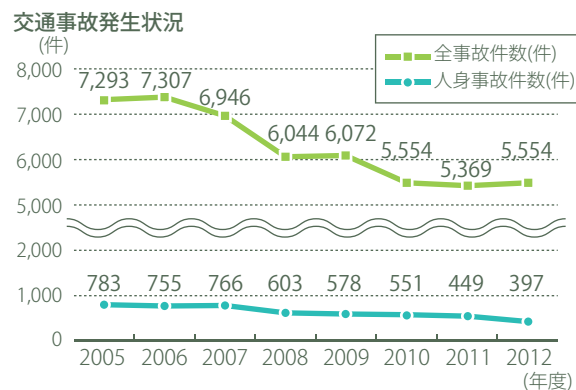
ドライバーが安心できる対策 (走行環境を改善する施設対策)

カーブ区間や分合流区間において、これまで実績のある効果的な安全対策を中心に、安全な走行環境への改善を引き続き行います。



事故多発地点への施設対策

上記のような施策の効果もあり、2012年度末時点において、対2009年度比で518件の事故を削減することができました。特に、人身事故が181件削減されるなど、重大な事故の削減が着実に進んでいます。今後もさらなる事故削減を目指して、交通安全対策を進めていきます。



HANKO Change Driveプロジェクト

これまで、阪神高速は事故ゼロを目指して、主に道路施設の整備に力を注いできました。その中で新たに課題として浮かび上がってきたのが、阪神高速特有の走行環境に慣れないドライバーの事故が多いということ。そこで、これからはドライバー自身への働きかけ=阪神高速特有の走行環境を知っていただくことで事故を未然に防ぐことが重要と考え、「HANKO Change Drive」プロジェクト(<http://changedrive.jp>)をスタートさせました。

阪神高速は「HANKO Change Drive」プロジェクトを通じ、安全運転力の向上したドライバーを増やし、笑顔の輪を広げていきたいと考えています。



阪高SAFETYナビ



交通安全支援サイト「阪高SAFETYナビ」(<http://safetynavi.jp>)では、社会心理学における態度・行動変容のプロセスに基づいた交通安全情報の提供や阪神高速道路の利用に際しての具体的な安全運転の支援を、ドライバー一人ひとりの特性に応じ、コミュニケーション手法を用いて実施しています。

「阪高SAFETYナビ」の主なコンテンツ



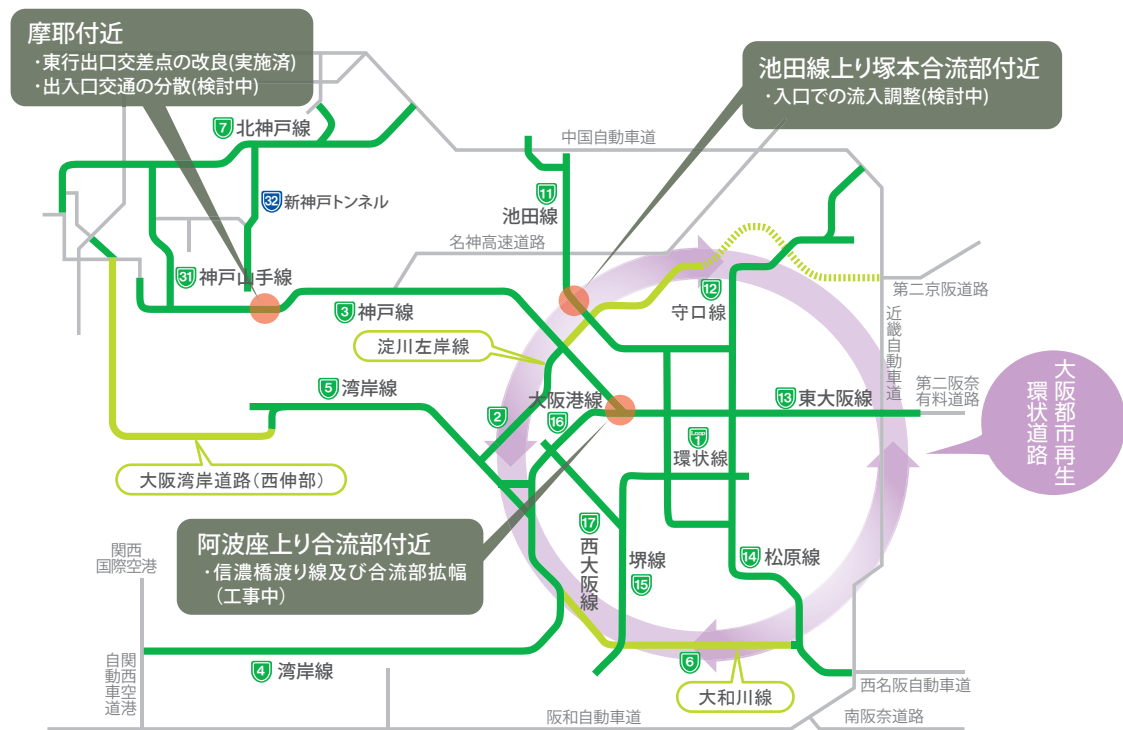
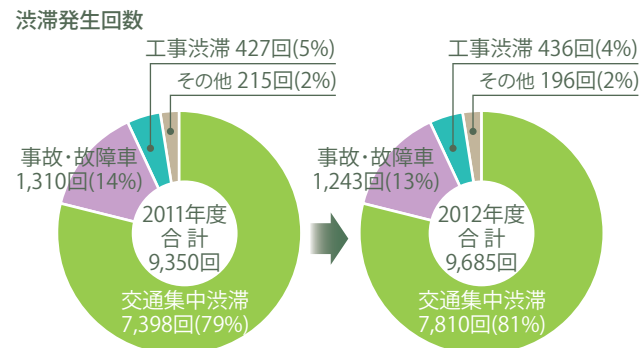
また、今回新たに「阪高SAFETYナビ」がスマートフォンに対応し、もっと身近に、もっと手軽になりました。これまでは、パソコンでしか取り組めなかった「阪高SAFETYナビ」の診断コンテンツ(SAFETYナビ ドライブカウンセリング・トレーニング)が、どこでも好きな時間にお取り組みいただけます。阪神高速の交通情報提供アプリ「はしれGO!」(※18ページ参照)にご登録いただくとスムーズにアクセスできます。



(改訂版) 新渋滞対策アクションプログラムの実施

阪神高速では、交通集中や交通事故、故障車、規制工事などさまざまな要因で渋滞が発生しています。渋滞が発生すると、走行速度が低下するとともに発進停止の繰り返しなどで、CO₂の排出量が増加してしまいます。

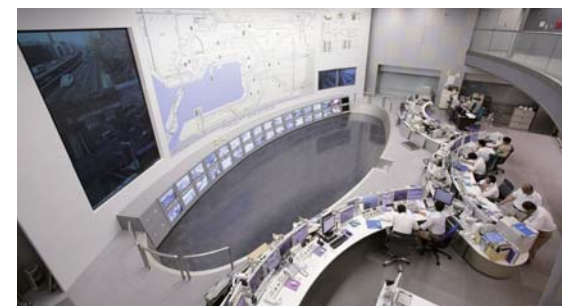
そこで、阪神高速では、ネットワークの整備とともに、下図に示すような「(改訂版)新渋滞対策アクションプログラム」を策定し、短期的な対策にも取り組んでいます。



渋滞予測情報

また、ゴールデンウィーク、お盆及び年末年始などの渋滞を避け、快適な旅行計画に役立てていただくために、長期休暇日ごとの渋滞予測情報を当社ホームページ上で提供しています。

よりきめ細かな情報提供で渋滞緩和を



交通管制室



経路比較情報板



図形情報板

交通管制システムに最新の高度道路交通システム (ITS) 技術を導入し、きめ細かな情報提供を通じて、円滑な交通流確保に努めています。具体的には、文字情報板、図形方式所要時間表示板、図形表示板、道路情報ターミナル、自動電話案内、道路情報ラジオ、道路交通情報通信システム (VICS、ビーコン)、ITSスポットを設置しています。

また、インターネットによる情報提供も強化し、「阪神高速はしれGo!」による渋滞情報や所要時間情報のお知らせ、ETC料金検索、規制工事の事前案内なども行っています。

さらに、最適なルート選択のための判断材料として、入口付近に設置している情報板の所要時間が「増加傾向」にある場合、所要時間の右横に二等辺三角形 (赤色) の「増加傾向マーク」を表示するなど、さらなる情報提供の充実に取り組んでいます。

携帯電話向け交通情報サービス

阪神高速はしれGo! 8405 **無料!**

ご利用・ご登録

携帯からも、アプリからも! ご利用登録など、詳しくはこちらから

<http://www.8405.jp/p/QR/>



阪神高速の交通情報をメールで配信! いつでも検索!

登録 いつでも、最新の路線状況を! **現在の路線状況**

全線の出入口閉鎖情報及び、事故規制情報など、最新の路線情報を一覧表示します。

登録 地図で見る交通状況 **阪神高速渋滞地図**

渋滞状況を地図で表示。渋滞、混雑、通行止めなどが一目でわかります。詳細を見たい場合は、「大きい地図」を選択すると、指先で自由に拡大できるので、渋滞の先頭がどのランプあたりなのか確認することができます。

登録 所要時間順に選べるルート! **リアルタイム情報**

出入口を指定して検索すると、ルート別に所要時間を表示します。また、所要時間の右横に表示された <青> は所要時間が減少傾向、<赤> は所要時間が増加傾向にあることを示しています。

登録 登録ルートの交通情報がメールで届く! **マイルート情報**

よく使うルート (マイルート) を登録し、指定時刻と指定条件を設定しておけば、所要時間や路線状況などをメールで配信します。

登録 より確実な到着時刻のめやすに! **タイムゾーンガイド**

指定ルートの所要時間のばらつきをグラフで表示。何時頃に混むのか、統計データから視覚的に判断できます。

登録なし 簡単検索 **ETC料金検索**

阪神高速は平成24年1月から距離料金に移しました。この [ETC料金検索] では、出入口を指定するだけで、曜日・時間帯・距離に応じたETCの通行料金を簡単に検索できます。乗換ルート別の料金比較も可能です。

登録なし あなたの安全運転のお手伝い **阪高SAFETYナビ** **NEW**

あなたの安全運転に対する意識、態度や危険察知力を診断します! 診断しながら、あなたに必要な安全運転知識が楽しく身に付きます!

補修工事の集約化で渋滞を削減

終日通行止めによる大規模補修工事は、通常の1車線規制による補修工事に比べて、短期間で工事を合理的に進めることができるため、工事期間中の平面街路での渋滞を考慮しても、工事渋滞によるCO₂の発生を抑制する効果を持っています。また、大規模補修工事で一括補修された道路は、騒音・振動の低減効果や走行安定性も高まり、結果的に事故渋滞の削減効果も期待できます。

阪神高速では、2012年度に下記の2路線において、終日通行止めによる大規模補修工事（フレッシュアップ工事）を行いました。

3
神戸線
フレッシュアップ
工事

2012年5月29日～6月6日（8日間）
第二神明道路須磨～湊川間（5.3km）



工事の概要

主な工事	補修数量	内容
舗装補修工事	約36,000㎡	・高機能舗装（排水性舗装）
ジョイントの補修	約260レノ	・平坦性の確保
カーブ区間での安全対策		・視線誘導標等

工事の効果

項目	規制日数	時間便益の損失額	渋滞量
通行止め工事 (a)	8日	10億円	767km・h
1車線規制工事 (b)	90日 (約1年)	51億円	5,666km・h
(a)/(b)		約1/5	約1/7

13
東大阪線
フレッシュアップ
工事

2012年11月26日～12月4日（8日間）
上下線（12.3km）



工事の概要

主な工事	補修数量	内容
舗装補修工事	約50,000㎡	・高機能舗装（排水性舗装）
ジョイントの補修	約160レノ	・平坦性の確保
照明柱取替	約160本	・視認性の向上
鋼桁改良	16連	・安全性、走行性の向上
カーブ区間での安全対策		・視線誘導標等

工事の効果

項目	規制日数	時間便益の損失額	渋滞量
通行止め工事 (a)	8日	25億円	813km・h
1車線規制工事 (b)	164日 (約3年)	67億円	6,314km・h
(a)/(b)		約2/5	約1/8

省エネルギー対策

道路照明等の道路設備の省エネ化を進めています。

道路照明等の省エネ化

阪神高速では、走りやすい道路の実現に向けて、道路照明、道路情報板、トンネル換気設備等さまざまな設備を設置していますが、更新時や新設時には新技術を導入し、積極的にこれらの省電力化を進めています。

LED道路照明

道路照明では、2010年に全国で初めて、どんな高速道路の本線にも適用できる基準を満たすLEDを用いた道路照明を開発し11号池田線において導入し、これに続いて8号京都線にも導入してきました。8号京都線の斜久世橋区間では、その年に竣工した優秀な照明施設に与えられる一般社団法人照明学会の2011年照明普及賞優秀施設賞を受賞しました。

2013年3月に部分開通した6号大和川線0.6km、2013年5月に開通した2号淀川左岸線（大開～海老江JCT）の高架部においても、LED照明を採用し省電力に努めています。



高架道路用LED照明



2号淀川左岸線の高架道路用照明

新型道路案内標識

案内標識には夜間の視認性を確保するため照明灯を設置していましたが、8号京都線や1号環状線、2012年リフレッシュ工事を行った13号東大阪線等の一部箇所では案内標識に照明灯を設置していません。標識板のシートを「再帰反射」型のもので採用し、走行する車両のヘッドライトの光がドライバーの方へ帰ってくるもので、これにより、案内標識の照明灯は不要となり省電力が図られます。



従来の案内標識



新型案内標識

インバータ制御ジェットファン

2号淀川左岸線の正蓮寺川トンネルに設置した高風速ジェットファンは、「インバータ制御方式」を採用しています。

トンネル内の環境データを分析し、消費電力量が最も低くなる運転パターンを選択することで適切な風量での運転を行います。



環境データ●事業活動に伴うエネルギー消費

阪神高速の道路管理業務では、道路照明、交通管制、道路情報板、ETC、トンネル換気、パーキングエリア（PA）、管理事務所等の建物での照明・空調・通信等を担う設備に多くの電力を消費します。また、道路巡回・維持点検等を行う業務用車両では、ガソリンも必要となります。

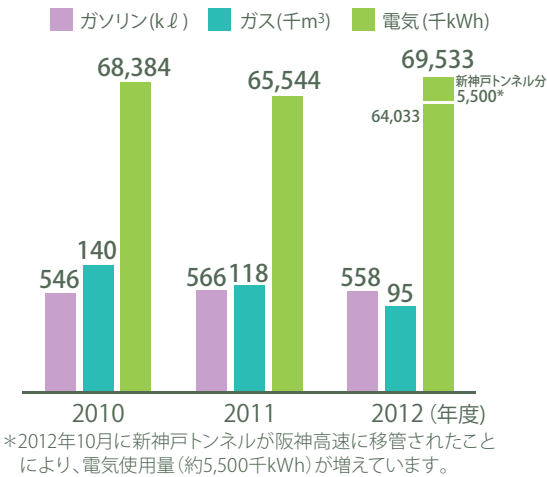
こうしたエネルギー消費は、供用延長が増え、中でもトンネル区間や新しい機能を持つ設備が増えていく状況の中では、増加傾向にあります。交換時期が到来した照明設備等について順次高効率のものに取り替えるなど、省エネに取り組んでいます。

2012年度の道路管理事業で消費されたエネルギーをCO₂に換算すると、約25.8千t-CO₂でした。

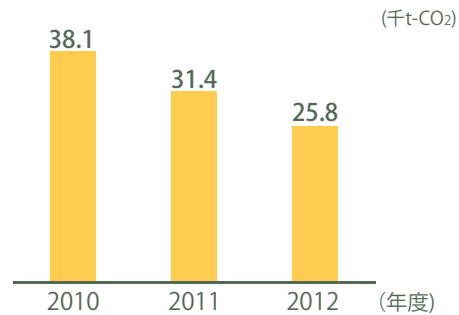
なお、2012年度の管理活動に伴う水使用量は、約160.6千m³でした。

※数値についてはいずれも、阪神高速道路を管理するために要したエネルギー等を集計しています。これらの中には、本線及びトンネル照明、オフィス部分を含む管理施設で使用する電力、道路巡回車が使用するガソリン、一部の沿道緑地にて使用する夜間照明の電力等が含まれます。

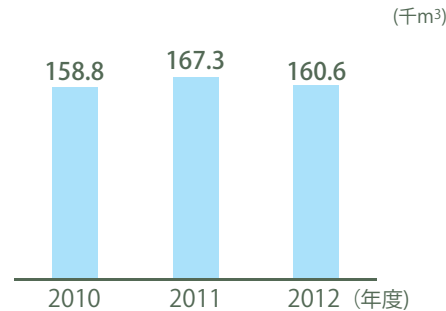
道路管理業務に起因するエネルギー使用量の推移



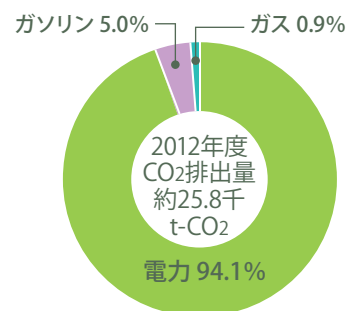
道路管理業務に起因するCO₂排出量の推移



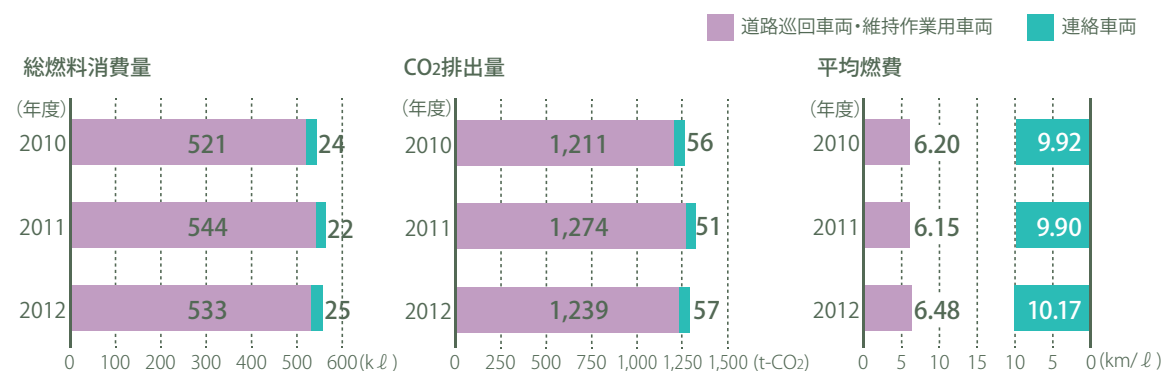
道路管理業務に起因する水使用量の推移



エネルギー源別CO₂排出割合



車両の総燃料消費量とCO₂排出量の推移



オフィスにおける取り組み

オフィスにおける省資源・省エネ活動

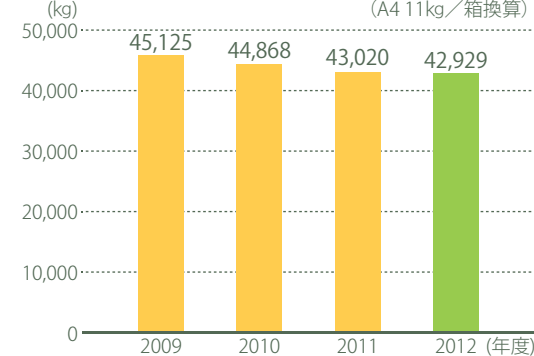
オフィス活動に伴うエネルギー消費等の削減に取り組んでいます。

オフィスでのエコ取り組み

コピー用紙の削減

阪神高速では、コピー用紙の使用量を削減するため、会議室にタブレット端末やパソコン、プロジェクターを設置し、会議資料の電子化を進めています。また、ミスプリントを減らすための印刷時認証システムの導入や、両面・集約印刷の徹底等コピー用紙の削減に努め、資源の有効利用を図っています。

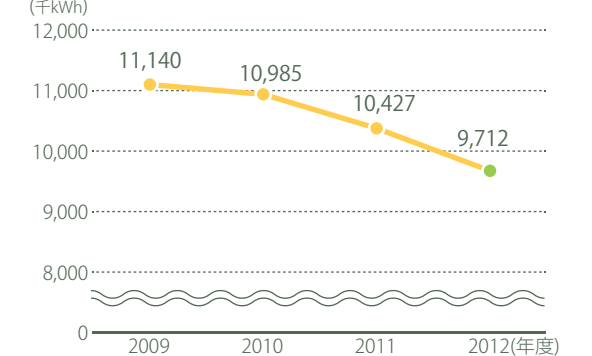
コピー用紙の使用量



オフィスでの省電力

2012年度に阪神高速のオフィス(省エネ法対象)で使用した電力量は、合計で約9,712kWhでした。阪神高速では、昼休み時間の消灯をはじめとして、継続的にオフィスでの節電に社員一丸となって取り組んでいます。

オフィスにおける電力使用量の推移



グリーン購入への取り組み

阪神高速では、オフィスで使用する文房具等の物品を調達する場合は、グリーン購入法(国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律)の適合物品の調達に努めています。

2012年度に阪神高速が調達した物品のうち、主なものは下表のとおりです。

2012年度グリーン購入の実績(抜粋)

品目	単位	総調達量	特定調達物品等の調達量	数量割合(%)
コピー用紙 (A4用紙500枚/冊換算)	冊	17,053	17,053	100.0
マーキングペン	本	1,428	1,227	85.9
鉛筆	本	488	464	95.1
消しゴム	個	335	335	100.0
クラフトテープ	個	213	213	100.0
のり(固形)	個	318	318	100.0
ファイル	冊	25,989	25,476	98.0
事務用封筒(紙製)	枚	40,200	40,200	100.0
ノート	冊	355	355	100.0
付箋紙	個	5,562	5,562	100.0
いす	脚	151	151	100.0
ノートパソコン	台	18	18	100.0
記録用メディア	個	1,065	1,065	100.0

道路工事での3R

工事におけるグリーン購入の推進や建設副産物のリサイクルにより、資源の節約、廃棄物の発生抑制を行い、循環型社会の実現に貢献しています。

環境負荷の少ない資材の購入

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。阪神高速の2012年度における高速道路の建設・維持修繕工事でのグリーン購入の実績は下記のとおりでした。なお、グリーン適合品で対応できない工事もあるため、調査年度に竣工した工事の態様によっても数値は変動することがあります。

工事におけるグリーン購入の実績(2012年度)

品目分類	品目名	単位	数量			数量割合 (%)
			特定物品	類似品	合計	
盛土材等	建設汚泥から発生した処理土	m ³	4,395	0	4,395	100.0
アスファルト混合物	再生加熱アスファルト混合物	t	9,910	0	9,910	100.0
コンクリート用スラグ骨材	高炉スラグ骨材	m ³	11,953	0	11,953	100.0
路盤材	鉄鋼スラグ混入路盤材	m ³	156	0	11,904	100.0
	再生骨材等	m ³	11,748			
混合セメント	高炉セメント	t	8,464	0	8,464	100.0
	生コンクリート(高炉)	m ³	38,774	0	38,774	100.0
塗料	下塗用塗料(重防食)	kg	29,590	0	29,590	100.0
舗装材	再生材料を用いた舗装用ブロック(焼成)	m ²	1,304	0	1,304	100.0
道路照明	環境配慮型道路照明	台	11	0	11	100.0
タイル	陶磁器質タイル	m ²	3,391	7	3,397	99.8
製材等	集成材	m ³	1			
	合板	m ³	31			
フローリング	フローリング	m ²	7	24	31	21.3
ビニル系床材	ビニル系床材	m ²	3,583	0	3,583	100.0
断熱材	断熱材	工事数	3			
照明機器	照明制御システム	工事数	1	0	1	100.0
変圧器	変圧器	台	16	0	16	100.0
配管材	排水・通気用再生硬質ポリ塩化ビニル管	m	369	0	369	100.0
衛生器具	自動水栓	工事数	6	0	6	100.0
	自動洗浄装置及びその組み込み小便器	工事数	9	0	9	100.0
	洋風便器	工事数	14	0	14	100.0
コンクリート用型枠	再生材料を使用した型枠	工事数	1			
建設機械	排出ガス対策型建設機械	工事数	51	0	51	100.0
	低騒音型建設機械	工事数	52	0	52	100.0
建設発生土有効利用工法	低品質土有効利用工法	工事数	1	0	1	100.0
建設汚泥再生処理工法	建設汚泥再生処理工法	工事数	1	0	1	100.0
コンクリート塊再生処理工法	コンクリート塊再生処理工法	工事数	2	0	2	100.0
舗装(路盤)	路上再生路盤工法	工事数	1			
		m ²	348			
山留め工法	泥土低減型ソイルセメント柱列壁工法	工事数	2	0	2	100.0
高機能舗装	排水性舗装	m ²	113,597			
	透水性舗装	m ²	498			
屋上緑化	屋上緑化	m ²	166			

最終処分量の削減

阪神高速では、工事に使用する資材について再生資材の利用に努めています。2012年度に竣工した工事におけるこれら再生資材の利用状況は下記のとおりでした。

再生資材の利用実績(2012年度)

建設資材	単位	搬入量	再生資材利用量	再生資材利用率 (%)
コンクリート(再生骨材使用)	t	204,716	904	0.4
コンクリート及び鉄からなる建設資材	t	292	0	0.0
アスファルト混合物	t	32,314	12,140	37.6
土砂	締めm ³	24,083	23,915	99.3
砕石	m ³	14,986	14,962	99.8
塩化ビニル管・継手	kg	1,061	0	0.0

また、阪神高速では、工事等により発生した建設副産物のリサイクルに努めています。

2012年度に竣工した工事におけるリサイクルの状況は以下の表のとおりでした。今後ともリサイクル率の向上に努めていきます。

建設副産物のリサイクル実績(2012年度)

建設副産物	単位	発生量	リサイクル量	リサイクル率 (%)
コンクリート塊	t	20,681	20,681	100.0
建設発生木材A	t	76	76	100.0
アスファルト・コンクリート塊	t	50,799	50,737	99.9
その他がれき類	t	3,412	1,657	48.6
建設発生木材B	t	22	14	61.9
建設汚泥	t	25,073	20,385	81.3
金属くず	t	4,981	4,899	98.4
廃塩化ビニル管・継手	kg	110	110	99.8
廃プラスチック(廃塩化ビニル管・継手を除く)	t	53	32	61.3
紙くず	t	35	33	95.4
その他の分別された廃棄物	t	430	430	100.0
混合状態の廃棄物(建設混合廃棄物)	t	701	557	79.4
建設発生土	地山m ³	242,665	144,077	59.4

※いずれも、「建設副産物実態調査(簡易センサス)」自社分とりまとめ結果に基づく

環境・景観にかかわる社会貢献

CSR活動の一環として、
地域で環境・景観にかかわる活動に取り組んでいます。

ビオトープを目指した緑地整備

2011年度から社員による管理緑地内の整備作業を定期的に行っています。過去に植樹したコナラやクヌギなどの生育を妨げる、繁殖力の強いウズやセイタカアワダチソウなどを駆除し、オオミズムシやコオイムシといった希少種の水生昆虫や、多数のトンボが生息している池の藻類の除去、堆積土砂の搬出を実施することで、生物多様性に配慮した機能向上を図っています。



「共生の森」で植樹活動

大阪湾の「堺第7-3区」は、産業廃棄物処分場として埋め立てによって造成された土地であり、普段は一般の人の立ち入りが制限されています。このため、広大な荒れた土地が広がっていますが、少しずつ時間をかけて自然豊かな森にしていこうと、廃棄物の受け入れが完了した2004年から企業・団体・府民による植樹活動が毎年行われており、今年、第10回の節目となる植樹祭が行われました。阪神高速グループからも5年前から毎年参加しています。最初に植えた樹木は今では6m近く育ち、野鳥や動物などの生物も少しずつ増えてきているそうです。



広がる緑化活動

高速道路を利用されるお客さまに楽しんでいただくと、社員が花壇を作る活動を7号北神戸線の白川パーキングエリアや14号松原線阿倍野料金所横の阿倍野事業所で継続しています。また、これまで十分手入れされていなかった国道43号沿いの事業用地に設置されているプランターや、研修所横の花壇も、社員の自発的な活動によって花が植えられたり、高速道路沿いに整備されている環境施設帯に植えられている樹木や花のわかりやすい案内板を設置するなどの活動が広がり、沿道地域の皆さまにも喜んでいただいています。



環境施設帯における樹木や花の案内板



研修所横花壇（春）

研修所横花壇（秋）

環境社会検定 (eco検定)

阪神高速グループでは、社員の環境意識の向上のために東京商工会議所主催の環境社会検定 (eco検定) の受験を2011年度から推奨しており、2012年度にはeco検定推進企業として同会議所のホームページに掲載されています。

複雑・多様化する環境問題について幅広い知識を持った、eco検定合格者=エコピールはゆっくりと増加し、2012年3月末現在で27名から申告がありました。

エコプラザ出展

年々複雑化する環境問題について、「おおさかATCグリーンエコプラザ」(大阪市住之江区)では、常設展示やセミナー・勉強会等をとおして、小学生からビジネスマン、海外からの見学者に広く情報発信を行っています。

阪神高速も持続可能な社会づくりを推進する企業として、展示ブースでの取り組みの紹介や「環境リポート」の配布を行っています。



ナナ・ファーム須磨

ナナ・ファーム須磨は、(株)高速道路開発が2011年4月に神戸市須磨区にオープンし、地産地消をテーマにした産直型の食に関する複合施設として事業展開しています。地元の農家で育てられた野菜や肉、瀬戸内海でとれた魚など、近くでとれた新鮮で栄養も高い旬の食材を専門に扱うことで、輸送等による環境への負荷も減らすことができます。また、化学合成農薬や化学肥料を削減するといった環境にやさしい営農活動を応援するとともに、食の安全を消費者に提供しています。



エコキャップ運動

エコキャップ運動とは、ペットボトルのキャップ部分を集めて再資源化し、その収益金で発展途上国の子どもたちにポリオワクチンを届ける活動です。

阪神高速では、パーキングエリアに回収箱を設置してお客さまに協力を呼びかけるとともに、阪神高速グループの各職場でも実行しています。



エコキャップ回収実績 (2012年度)

回収個数	約204,384個
CO ₂ 削減効果	約1,497kg
ワクチン換算	約238人分

※約860個を焼却すると6.3kgのCO₂が発生します。
※約860個でポリオワクチン1人分が購入できます。

地域清掃活動

阪神高速グループでは、事務所や工事現場の周辺などにおいて、地域が快適なまちとなるよう、社員による清掃のボランティア活動を継続して実施しています。地域によっては地元の皆さまと一緒に作業しています。



阪神高速道路のノウハウを世界に発信

道路をととして社会に貢献するため、国際活動やコンサルティング事業に取り組んでいます。

国際貢献活動

世界各国から、道路にまつわるさまざまなテーマをもった実務者に対し、阪神高速が培ってきたノウハウを紹介することで、世界各国のインフラ整備における効率化、円滑化、環境配慮に貢献しています。2012年度は、ケニア・タイ・中国などからの道路関係者の視察・訪問を受け、高速道路の建設現場での研修等を行いました。



ケニアの道路関係者に日本の品質管理、安全管理、周辺環境配慮について解説 (2012年5月)



タイの都市高速道路技術者に対し、2号淀川左岸線の環境対策を紹介 (2012年9月)



中国の道路行政担当者に対し、6号大和川線の建設状況と品質安全管理について説明 (2013年1月)

国際コンサルティング業務

ケニア

(株)片平エンジニアリングインターナショナル、(株)オリエンタルコンサルタンツ、阪神高速道路(株)から成る共同企業体は、ケニアにおける円借款事業「モンバサ港周辺道路開発」にかかるコンサルティング業務を受注し、2013年1月7日付、ケニア国道公社との契約が成立しました。当社は「道路維持管理にかかわる能力強化」を担当し、現地に赴き、現場の指揮指導、相手国側との調整を実施しています。



モンバサ周辺の状況



ケニアの道路 (イメージ)

中国

発展著しい中国において、阪神高速が培ってきたノウハウをもとにしたコンサルティングビジネスを展開するべく、現地法人「阪申土木技術諮詢(上海)有限公司」が積極的に活動しています。



環境ポリシー

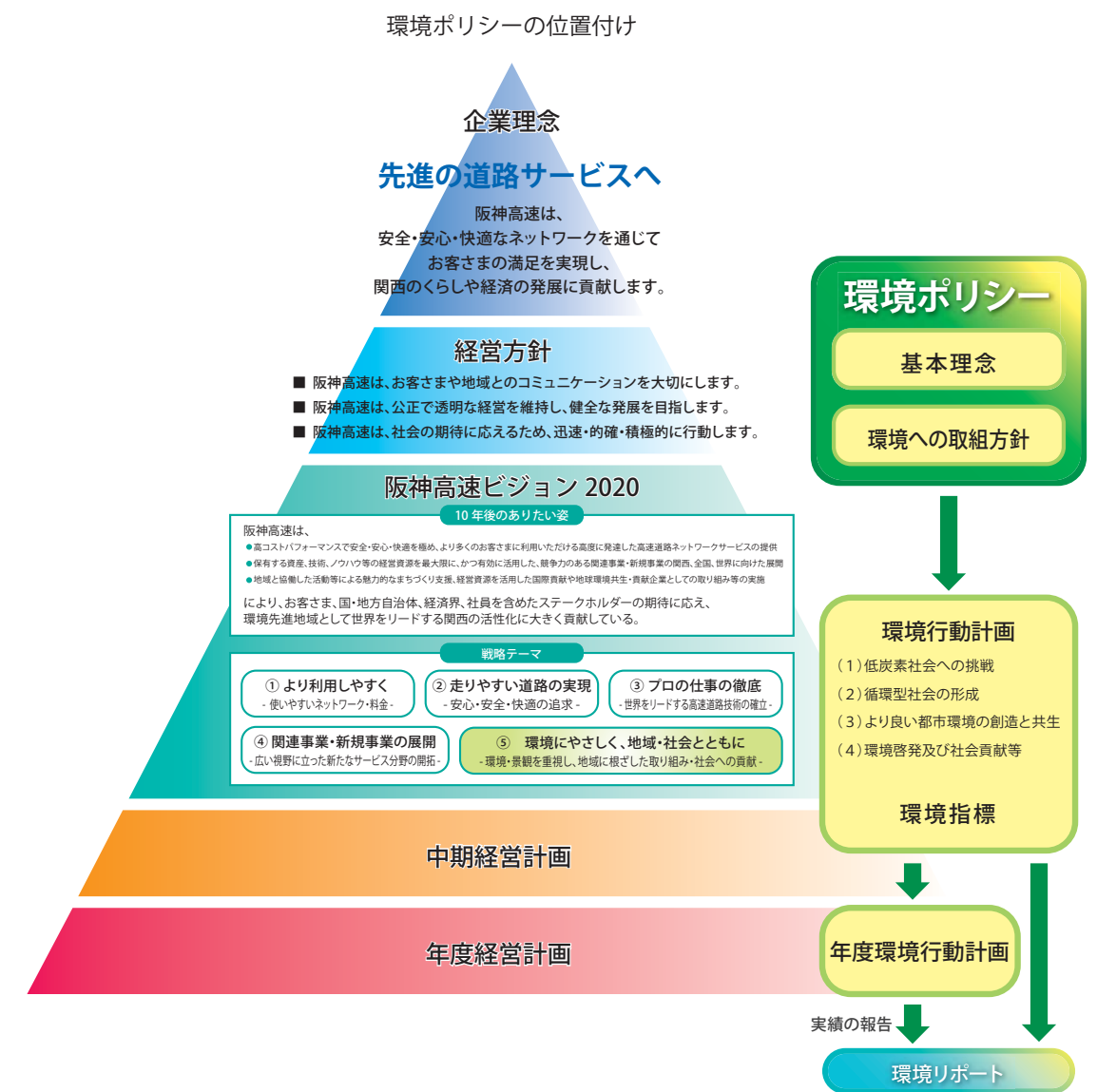
環境ポリシーの基本的事項

環境ポリシーの趣旨

阪神高速グループでは、2010年4月におおむね10年後の「ありたい姿」とその実現に向けた「戦略テーマ」からなる「阪神高速ビジョン2020」を策定し、「環境への取組」を一つの重要な柱として位置づけました。

具体的には、“総合的な環境にやさしい道”を目指して、沿道環境への負荷の低減、沿道環境との調和、地球環境への負荷低減に向けて阪神高速グループを挙げて取り組む方針を掲げています。

この環境ポリシーは、阪神高速グループが持続可能な社会の構築に向けて行動していくに当たっての基本理念、具体的な施策を展開して行くための環境への取組方針を定め、継続的に努力していくことを目的として定めたものです。



環境ポリシーの基本理念と環境への取組方針

環境ポリシーの共有

「先進の道路サービス」の体現や、「阪神高速ビジョン2020」における施策・取組の実行を支えるためには、当社のみならずグループ会社が一体となって、人材育成、技術力強化・継承、広報展開・ブランド形成など、経営システムの強化等に取り組むことが必要です。

環境への取組を推進する上でも、グループ会社の自主性及び独立性を尊重しつつ、グループ内における企業理念の共有化、役割分担の明確化、経営資源の最適化等に取り組む、グループ全体で同じ理念・方針で臨むことが必要であることから、本環境ポリシーは、阪神高速グループ全体で共有します。

環境ポリシーの構成

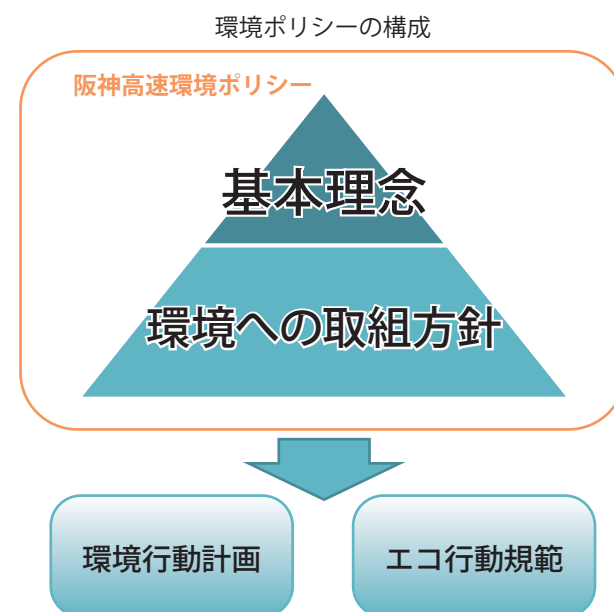
環境ポリシーは、基本理念、環境への取組方針の2部で構成し、別途、環境行動計画及びエコ行動規範を策定します。基本理念においては、豊かで住みよい社会を次世代に引き継ぐため、温室効果ガスの抑制を始めとした地球環境の保全を重要な課題と認識し、阪神高速道路の建設、管理という企業活動に伴う環境負荷の軽減に努め、また、都市の環境や景観との調和を重視した健全な都市づくりに貢献する決意を示しています。

環境への取組方針は、① 環境マネジメントの強化、② 環境に配慮した設計・開発、③ 環境行動に関する対外連携の促進と情報発信の充実を柱とし、高速道路の計画から廃棄物の廃棄までを視野に入れたトータルな環境対応に取り組む姿勢を示しています。

これを受けて別途策定する環境行動計画では、おおむね10年後の2020年度（平成32年度）を長期的に見通しつつ、① 低炭素社会の実現に向けた挑戦、② 循環型社会の実現に向けた活動の展開、③ より良い都市環境の創造と共生、④ 安心され、信頼される地球環境共生・貢献企業をめざした環境啓発及び社会貢献等の展開を柱として、持続可能な社会の構築に向けた具体的な取組事項を定めます。

また、エコ行動規範は、グループ社員一人ひとりが実践行動として取り組むべき環境への配慮について示します。

今後、阪神高速グループでは、環境ポリシーの基本理念・環境への取組方針の下、事業形態・規模などに応じて環境行動計画を策定し、グループ一丸となって総合的な環境保全活動を推進していきます。



基本理念

阪神高速グループは、豊かで住みよい社会を次世代に引き継ぐため、温室効果ガスの抑制を始めとした地球環境の保全を重要な課題と認識し、阪神高速道路の建設、管理という企業活動に伴う環境負荷の軽減に努めます。また、都市の環境や景観との調和を重視した健全な都市づくりに貢献します。

さらに、阪神高速道路を利用されるお客さまへの働きかけや地域社会との連携などを通じた様々な取組を実施することにより、阪神高速道路の環境負荷軽減効果を最大限に引き出します。

これらの実現のために、阪神高速グループの社員一人ひとりが地球環境に関する意識を高め、持続可能な社会の形成に積極的に参画することが重要であるとの認識を持ち、地球環境共生・貢献企業として行動して参ります。

環境への取組方針

阪神高速グループは、上に掲げる基本理念の実現に向けた具体的な施策の展開を図るに当たり、8つの具体的な方針を定め、環境保全対策の推進に努めます。

<環境マネジメントの強化＝組織体制等>

- 1 環境保全への取組を経営の最重要課題の一つと位置付け、阪神高速グループを挙げて環境の保全と向上に取り組む。
- 2 環境保全組織体制等を整備し、環境保全に関する役割と責任を明確にする。
- 3 環境関連法規、条例等を遵守し、環境行動計画及び環境指標を設定して、環境保全活動の継続的な改善、質的向上に努める。

<環境に配慮した設計・開発＝事業活動>

- 4 高速道路の建設及び管理並びに阪神高速グループが営む全ての事業活動の領域で、汚染の防止、省資源、省エネルギー、廃棄物の発生抑制、再使用、再資源化等環境への負荷の低減に努める。
- 5 事業活動における物品・資材調達に際しては、持続可能な社会の構築に貢献するため、環境負荷の少ない物品・資材の調達＝グリーン調達を推進する。
- 6 環境・エネルギー問題の解決に貢献する高度で信頼性が高い先進の技術やサービスの開発、導入、提供に向け、積極的に挑戦する。

<環境行動に関する対外連携の促進と情報発信の充実＝社会的責任>

- 7 環境情報の発信、行政や地域社会等と協働した環境活動への参画、海外との環境情報の交流や環境技術協力による地球環境保全への参加等、幅広い環境コミュニケーションを推進する。
- 8 環境に関する行動規範の策定や環境教育等を通じて全社員の環境意識の向上を図るとともに、環境保全に高い配慮ができる人材を育て上げ、組織体制等に組み込んで情報発信内容の充実を図る。

阪神高速道路株式会社 環境景観室

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号

TEL：(06) 6252-8121(代表)

URL：http://www.hanshin-exp.co.jp



この印刷物は、有害な廃液を排出しない水性インクを採用しています。また、大豆油インクを包含した植物性インクと適切に管理された森林の木材を利用した FSC 認証用紙を使用しています。

未来が変わる。
日本が変わる。



阪神高速

クロスする3つの楕円は、

「大阪・神戸・京都」の三大都市を中心とするネットワークを意味します。

それらが描く無限軌道は、高速道路の快適な走行を象徴すると同時に、

「関西の限りない可能性と発展」を表現しています。

そして、

コーポレートカラーである「阪神ブルー」は、

先進性・格調・洗練されたイメージを

印象づけています。